

第1回中川村リニア中央新幹線対策協議会開催



(出席者：委員 20 名 幹事・事務局 8 名)

第1回中川村リニア中央新幹線対策協議会を、平成27年2月5日(木)に役場基幹集落センター集会室で開催しました。今回は協議会の立ち上げということで、この会の役割を全員で確認し、今後の対応や進め方について意思統一を図りました。また、事業主体である東海旅客鉄道(株)による説明会など、これまでの経過やそれぞれの立場で把握している現状などについて情報を共有しました。

今後は、リニア中央新幹線建設工事に関する村民の声を取り入れながら、その時々課題の解決に向け、随時協議会を開催していきます。

協議内容は次のとおりです。

(協議会の役割などについて)

委員 この協議会で、リニア中央新幹線建設工事の内容(具体的に運搬車両の軽減や発生土の処理等について数値的な提示を含めて)についても協議していく必要があるのではないか。

委員 募集要項では、協議内容について発生土のことも謳われている。

村長 あくまで、東海旅客鉄道(株)の工事内容を明らかにし、それに対する住民の声を吸い上げ、要望として上げていくことがこの協議会の目的。

委員 この協議会以外にこれらの問題について話し合う場はないと思われる。ここで協議されなければならない内容ではないか。

村長 協議会は改善策を考えるとところではない。示されている工事内容に関して住民が感じる不安や不満などの声を、この会でまとめて上げていくことが役割。それに対して東海旅客鉄道(株)で改善策を考えてもらうということ。
廃土の受け入れについても、東海旅客鉄道(株)がどういう考えでいるのか、安心できるのかをこの協議会でまずしっかりと確認してから考えるべき。

委員 この協議会はいつまで行われるのか。
幹事 工事の進捗状況と住民からの要望などによるところが大きいため定かにはできない。また、そういった面では協議会の開催も不定期となる。

委員 協議会としての意思決定はどのようなプロセスになるか。
幹事 多数決で決めることはなく、総体としての方向性を見いだす形で行っていきたい。

委員 村民からの意見、要望、質問を募集する際、匿名の応募はどう取り扱うか。
幹事 匿名の場合は取り扱わない。

委員 この協議会のマスコミ以外の一般の傍聴は可とするか。
村長 協議会のなかでの発言は公開していくかどうか。
幹事 協議会で話された内容については公開していくので、現在のところ一般の方の傍聴までは考えていない。

村長 公開の際、誰の発言か分かるようにするのならそれでもよい。

委員 個人情報のため匿名であるべきでは。

委員 個人名で公開すると発言しづらくなるのではないか。

(現況について)

委員 松川インター大鹿線の道路改良工事における測量の進捗状況について情報提供。
西下トンネル付近の測量が完了しており、四徳大橋から滝沢トンネルに関しては、年明けから行われている。

委員 小渋線の道路の拡張に伴い葛島財産区山林への立ち入り、測量、ボーリングの許可を昨年11月に東海旅客鉄道(株)に出している。場所は小渋ダム下流の4カ所。

(その他)

委員 残土活用など民間単位の意見、要望はどこに上げればよいか。

幹事 役場で受けたものについては、一旦県のリニア推進振興室に上げることになる。

閉会